

県立高校再編整備計画

平成31年度～平成34年度実施計画（素案）

に対するパブリック・コメントの概要

3 提出された意見及びこれに対する考え方

■ 平成31年度～平成34年度実施計画（素案）の内容に係る意見（18件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
1 再編整備 (1) 全日制課程（5件）	
<p>○ 子どもの数が全県的に大幅に減少する中、分校の募集停止は致し方ないと思う。高校では、ある程度の学校規模を維持してほしい。</p>	<p>○ 選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るため、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進めます。</p>
<p>○ 鹿野分校は、少人数だからこそ登校しやすい面もあると思うので、継続してほしい。</p> <p>-----</p> <p>○ 集団生活になかなかなじめない、集団生活に苦手意識がある子にとっては、少人数の学校は貴重である。全日制を希望している子にとっては、少人数の分校のような学校が募集停止になると、選択肢がなくなってしまう。</p> <p>-----</p> <p>○ 県立でなければ運営を維持できない利便性の悪い地域の学校を分校化して廃校にすることは、県民に対する教育機会の均等という本来の県立高校の役割を見失っているように思う。</p>	<p>○ 選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざした再編整備を進めることが必要であると考えています。</p> <p>「県立高校再編整備計画（H27.10）」では、全日制課程を置く分校について、将来的に入学者が定員の二分の一を満たすことが見込まれない場合、募集停止を検討することとしています。</p> <p>徳山北分校と鹿野分校については、現在の学校の状況や今後の入学者数の見込み等を踏まえ、生徒募集の停止を検討することとしました。</p> <p>なお、両分校で実施している少人数のよさを生かした指導については、他の高校でも共有し、各高校において、個に応じたきめ細かな教育を進めます。</p>
<p>○ 分校の募集停止の実施時期については、分校への進学を希望している者に対して他の選択肢となり得る、県央部多部制定時制高校の開設後にしてほしい。</p>	<p>○ 計画の推進にあたっては、学校の状況や中学校卒業見込者数の推移等を勘案し、関係者の意見も聴きながら、実施時期等について検討します。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>1 再編整備 (2) 定時制課程 ア 県央部への多部制定時制高校の設置 (4件)</p>	
<p>○ 県央部多部制定時制高校の設置に期待している。 学習する時間帯が選べる学校は、これからの時代に必要であると思う。また、新山口駅周辺は交通の便がよいため、様々な地域から通学しやすいと思う。</p>	<p>○ 県央部の多部制定時制高校は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒の多様な学びのニーズに対応する、柔軟な教育システムの構築を進めます。</p>
<p>○ 山口県に午前の定時制は本当に必要なのだろうか。午前の定時制については、全日制で受け入れていけば良いし、多様な学習形態は、午後部と夜間部をあわせた定時制で十分と思われる。</p>	<p>○ 定時制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっています。 こうした生徒の多様な学びのニーズに対応し、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とするため、3部制定時制高校を設置することとしました。</p>
<p>○ これから急激な15歳人口の減少が続く中、多くの学校施設に空きがあるにもかかわらず、土地を購入し、校舎を建て、県央部に多部制定時制高校を設置する必要があるのだろうか。</p>	<p>○ 定時制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっています。 こうした生徒の多様な学びのニーズに対応するため、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことなどを可能とする多部制定時制課程の設置が必要であると考えています。 その設置にあたっては、専用校舎が必要となることから、通学の利便性が高い新山口駅周辺に、多部制定時制高校を新設することとしました。</p>
<p>○ 県立高校再編整備計画は、山口県の国、公(県、市)、私立の中等教育機関全体の視点で検討がされているのだろうか。 全日制高校と志願者層が重なることが想定される午前部、午後部の定時制高校の設置により、他の学校に与える影響を十分に考慮することが必要である。</p>	<p>○ 県立高校の再編整備については、中学校卒業生数の推移や中学生の志願状況、高校生の通学実態、私立学校の配置状況などを勘案するとともに、地域における高校の実情や、分散型都市構造にある本県の実情等も踏まえて総合的に検討しています。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>1 再編整備 (2) 定時制課程 イ 夜間定時制課程の再編整備 (4件)</p>	
<p>○ 再編整備に関わる全ての定時制高校について、ここ数年の学力検査の状況(一次・二次の出願状況や第一志願の割合等)や出願者・入学者の生活地域などは情報収集・検討されたのであろうか。</p> <p>-----</p> <p>○ 計画では、周南地域と厚狭地域に夜間定時制がそれぞれ2校残ることになっているが、教員の人件費や生徒の在籍状況を考えると、それぞれ1校でよいのではないか。</p> <p>-----</p> <p>○ 県央部に多部制定時制を新設して、通学が十分に可能な厚狭地区に空き定員を大きく抱えた2校の夜間部定時制高校を残す必要があるのだろうか。夜間定時制の再編整備の募集停止に宇部中央高校、小野田工業高校も加えることが望ましいと思う。</p>	<p>○ 定時制課程の再編整備については、各学校の志願・入学状況や通学の利便性、設置学科の地域バランス等を総合的に勘案しながら検討しており、周南地域と厚狭地域においては、夜間定時制での普通科と工業系学科の教育機能を維持することにより、両学科への進学ニーズに対応する必要があると考えています。</p>
<p>○ 県央部の定時制高校設置でいくつかの学校が募集停止になることはわかるが、通学困難者が出ないような配慮がほしい。</p>	<p>○ 定時制課程の再編整備については、通学の利便性を踏まえ、広い範囲から通うことができる新山口駅周辺に、多部制定時制高校を設置することとしました。</p> <p>また、生徒の通学の利便性の維持・向上を図るため、公共交通機関や地元市町に対して、各地域や学校の状況に応じ、運賃・ダイヤ・路線等に関する働きかけを行っており、今後も、公共交通機関や地元市町に働きかけていきます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
1 再編整備 (3) 通信制課程 (4件)	
<p>○ 新高校と山口高校通信制が併存する期間の教員配置やスクーリングの実施方法について、今後検討が必要である。</p> <p>-----</p> <p>○ 新高校で平日のスクーリングを実施するのなら、通信制専用の教室を必要数設置する必要がある。</p> <p>-----</p> <p>○ 山口高校通信制の廃止時期や、廃止に伴う在籍者の扱いについては、できるだけ早く決めて生徒に知らせる必要がある。</p> <p>-----</p> <p>○ 混乱がないよう、通信制の教員や在校生の意見を丁寧に聴きながら進めてほしい。</p>	<p>○ 計画の推進にあたっては、関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期等について検討します。</p> <p>また、検討した内容については、中学生や通信制課程の生徒等への早期の情報提供に努めます。</p>
その他 (1件)	
<p>○ 計画期間の表記が「平成31年度～平成34年度」となっているが、元号が新しくなるため、西暦の表記に変えるか、西暦を併記した方がよい。</p>	<p>○ 御意見を踏まえ、計画期間の表記に西暦を加えました。</p>

■ その他の意見（８件）

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

再編整備全般（５件）
○ これからの夜間定時制高校は、下関双葉高校のように、総合学科にしていくと良いと思う。県内全定時制が総合学科になることが、最近の生徒の現状を見ても適切ではないかと思う。
○ 今後「地域の学校」という視点はどんどん薄くなり、対象地域の少数の生徒に負担を強いていくようになると思う。高校を「後期中等教育としての場」としてだけでなく、地域に根差し、共に活動する「地域の学校」として考えてほしい。
○ 配慮が必要な生徒が、圧倒的に少人数であったとしても、学びたい者を切捨てない、排除しない理念が根本になれば、これからの「教育」に将来性はないと思う。そのように考えると、山陰地区や通学に困難さがある地域へ、定時制高校を設置することが、定時制の設置目的に矛盾を生じさせないためにも最重要の課題である。
○ これまでの再編統合後の各地域の状況（中学生の進路選択意識の変化や地域の過疎化進行の様子など）が総括されていない。
○ 県央部に３部制を設置することにより、県民の教育機会の均等を理由に、岩国、下関地区の定時制に、午前部を安易に設置しないことが必要である。
その他（３件）
○ 定時制課程は、少人数で、きめが細かく、家庭的な雰囲気での学習環境で、学び直しや社会性の未発達な部分を、個々に丁寧に指導、支援する学習の場ではないかと思う。 それに対して、教員定数等の制度的な裏付けをしていくことが、定時制教育に必要な課題である。
○ 県教委では再編整備を「教育の質の向上」に結びつけているが、質の向上を客観的にはかるのは困難である。再編整備と結びつけるなら、もう少し丁寧な説明が必要であると思う。
○ 今回、大幅な定時制の統廃合が実施されるが、パブリックコメントの前に、現籍の生徒・教員への意見の聞き取りが必要だったと思う。